

令和4年度 学校評価表 阿波中学校

項目	具体的努力目標	自己評価		改善策	ご意見
		達成状況	4段階評価		
①豊かな心の育成	○人権学習・道徳教育情報モラル教育の充実	○道徳科などの時数を確保し、多様な教材や手法を用いた、人権学習、道徳教育、情報モラル教育を実施した。(ローテーション道徳、校内研修の実施) ○校内人権に関する意見発表会、阿波市人権講演会、携帯安全教室、デートDV防止教室、性の多様性についてなどの学習を通して、生徒の人権意識・道徳性が高まった。9割を超える生徒が、人権学習や道徳の時間に真剣に取り組む、自分や友達の人権を大切にできていると考えている。(学校生活に関するアンケート調査より) ○インターネット(SNS)を通じてのトラブルに対して、個別・全体指導を行った。 ○インターネットによる人権侵害、性の多様性に関する問題、新型コロナウイルス感染症に関する人権問題など、新しい人権課題に取り組み、偏見や差別解消に向けて生徒とともに教職員も学びを深めた。	B	○各種講演会やゲストティーチャーによる〇〇教室などを引き続き行う。 ○保護者も含めた啓発活動を行う。(講演会の案内、学校からの各種通信、生徒と保護者で共に考える機会の工夫) ○インターネット(SNS)による人権侵害や、新しい人権課題について今後も研修を深めていく。 ○新しい人権問題だけでなく、部落差別などについても、校内研修を行ったり、感染状況に応じて校外での学習を取り入れていく。	様々な人権課題があるが、「命の尊さ」「命の大切さ」を学ぶ機会として、『赤ちゃん先生』という取組がある。妊娠・出産・子育てについて、直に学ぶチャンスである。いろいろな立場の方から、お話を聞くことはよい学びになると思うので、出前授業や体験的活動をどんどんしてもらいたい。
	○生徒指導の充実	○約7割近くの生徒が学校にいじめ等の悩みを相談できている。 ○9割を超える生徒が、学校の規則やマナーを守れている。 ○各種関連機関(スクールカウンセラー、適応指導教室、スクールソーシャルワーカー、医療機関、県や市の相談員)との連携ができてきている。 ○学校に来られない生徒がいるが、その生徒に対する粘り強い支援や家庭との連携ができてきている。 ○生徒会活動で校則に関するアンケートをとったり、話し合いをしたりしながら生徒と教職員がともに校則の在り方を見直している。 ○生徒や保護者に対して、カウンセリングや悩み相談ダイヤルなどの相談窓口を紹介している。 ○生活アンケートを通して日頃の悩みや思いを伝える機会を設けている。	B	○保護者と連携しながら、粘り強い支援を継続して行う。 ○教員同士の共通理解を徹底し、生徒指導に努める。 ○スクールカウンセラー、適応指導教室、スクールソーシャルワーカー等との連携を継続して行う。 ○礼儀・あいさつなどの伝統を継承し、自尊感情を育てていく。 ○時代の変化に対応した校則のあり方を模索しながら、生徒の成長を促す。 ○生徒指導研修を取り入れ、チーム阿波中として一丸となって生徒の命と人権を守っていけるようにする。	意見箱が効果的に活用されている。校則のことだけでなく、悩みなどを相談できる「相談箱」のようなものもあればよいのではないかと。誰が投稿したのかわからないものならば、意見を言いやすく、いじめなどを早期発見できると思う。
	○体験的な活動や生徒が主体となった活動の充実 ○校内美化活動の充実	○ゲストティーチャーを招聘してのキャリア教育、職業インタビューや上級学校調べ、福祉体験学習などの体験的活動に主体的に取り組む、自分の将来や生き方について考えることができた。 ○六楼祭や体育祭、合唱コンクールでは、様々な制約がある中で、新型コロナウイルス感染症対策などを、生徒が主体的に考え、実施することができた。 ○委員会・ユニバース活動・各種行事などの異学年交流により、先輩から学び後輩を思いやる気持ち、学年の壁を越えて学校や学年、自分自身をよりよくしていこうという気持ちを育むことができた。 ○校内美化に心がけていると考えている生徒が9割を超えている。(学校生活によるアンケート調査より)しかし、時間いっぱい清掃に取り組めていない生徒もいる。 ○積極的にボランティア活動を行う生徒が増えてきている。	A	○時間いっぱい、自分の分担以外も清掃活動ができるように指導する。教員も生徒とともに、清掃活動を行い、校内美化に努める。 ○学校行事など活動の目的や狙いを生徒にはっきりと伝える。 ○学習活動のふり返りを工夫し、適切な評価をする。 ○新しい生活様式に即した学校行事のあり方について生徒とともに考える。	
②特別な学力教育の育成・推進	○授業改善の推進	○家庭学習の習慣について、学年によってばらつきはあるが、生徒は全体の2割、保護者は3割が不十分と答えているのが課題である。 ○学校で意欲的に授業に取り組んでいる生徒は、どの学年も8割を超えている。 ○「話す」「書く」等の表現力が身につくよう努力している生徒は、どの学年も8割を超えている。 ○2学期に各クラスにプロジェクター、スクリーンが設置され、ICTを活用する授業が増えた。 ○ペア学習やグループ学習等で意見交換する場を設定し、活動させた。 ○1分間スピーチや生活記録で自分の気持ちや考えを表現させた。 ○オンライン授業を実施することができた。	A	○自主勉強ノートの仕方をレポート形式の調べ学習にするなどの工夫をする。 ○自ら進んで予習・復習ができるような課題を与える。また、家庭との連携を図り、家庭学習の時間を確保する。 ○学んだことをまとめたり、根拠を明らかにして説明したりするような時間を授業の中で確保する。 ○授業でふりかえりシートなどを活用して、授業の振り返りを行い、自己評価や感想を書く時間を設定する。	生徒も大人も、世の中にどんな仕事があるのかを知らない。職業リストの本などで、まずは職業について知ることが大切である。政治や議会について中学生に知ってもらいたい。将来、そこから政治に対する関心が生まれてくることもある。成人が18歳に引き下げられ、今から政治に関心を持たせることは必要である。
	○キャリア教育の充実	○学年が上がるにつれて将来の進路や職業について考えることができる生徒の割合が増え、全体として8割以上の生徒が考えることができてきている。 ○家庭で進路のことについて話ができている生徒が約2割いる。 ○各学年の発達段階に応じたキャリア教育の推進ができた。 ○キャリアパスポートを活用し、学習や行事の振り返りを行い、次年度につなげることができた。	A	○「キャリア教育」と言葉を理解してもらえるように、ホームページや学年通信を通して、継続的に啓発していく。 ○職業インタビューや職場体験学習、進路希望調査を通して、家庭で将来について話し合う機会をもたせる。	また、自分の意見を自分の言葉で伝える力はこれから必要である。
	○特別支援教育の充実	○特別支援学級の授業では、個に応じて真剣に取り組むことができた。 ○特別な支援が必要な生徒について、保護者や関係機関と連携がとれている。 ○個別の支援が必要な生徒(通常学級)への支援が十分でないときもある。	B	○全校体制で特別支援教育に取り組めるようにする。 ○教員間で個別の指導計画を立て、個々の実態に応じたきめ細かい支援を行う。 ○「誰でもわかりやすく」を合い言葉に、インクルーシブな授業や学校生活ができるように工夫する。 ○生徒理解のための時間をとり、教員間で共通理解を図る。 ○通常学級で支援が必要な生徒に対して個に応じた支援をする。(TTの配慮、環境を整える。) ○特別支援学校や医療機関、放課後デイサービス等関係機関と継続して連携していく。 ○生徒の行動について、できたことやできるようになったことをほめ、認めるポジティブな行動支援を推進する。	「ポジティブな行動支援」といわれているが、先生には子供を伸ばす声かけをお願いしたい。「できない」「苦手だ」「無理だ」というネガティブな言葉は子供の自信をなくさせる。
③健康・安全教育・食育の推進	○健康教育の充実	○保健体育の授業開始時にランニングをするなど、体づくりの活動を取り入れた。 ○授業内容を実態に合わせて設定し、熱中症、怪我、感染症の予防に努めた。 ○市の関係機関と連携し、健康教室を実施した。 ○長期休業中に個々で目標設定をし、生活習慣改善に取り組んだ。 ○テスト前に「メディアコントロールチャレンジ」を実施し、家庭でメディア使用を制限できるよう、個々で目標設定し、取り組んだ。 ○肥満傾向児に個別健康相談を実施した。 ○部活動ごとに体づくり指導を実施した。 ○歯科健康診断後の受診率はあがったが、視力検査受診率は下がった。	B	○引き続き、体づくりと体力向上に努める。 ○生活習慣改善に向けて、多角的視点から繰り返し指導をしていく。 ○メディアコントロールチャレンジは自分の目標設定を上げることができるよう、毎テスト前に実施する。 ○個別健康相談は、短期集中型にする。 ○健康診断後の治療報告は、事後、夏季だけでなく、長期休業前に再報告していく。	阿波市女性消防団の「防災紙芝居」を各幼稚園や小学校で依頼され、行っている。中学生も防災意識を持たせるために、学校での避難訓練だけでなく、様々な取組をしてみようか。「避難所運営ゲーム」専門家に来ていただいで、活動をしなが、防災について学んでいくことは効果的である。
	○安全教育の充実	○避難訓練は、予告なしで実施し、自らの命を考え主体的に行動できた。 ○交通安全は、生徒も職員も安全意識が高まっている。 ○職員が毎月実施している安全点検を電子化したしたが、忘れがちになっていた。 ○安全マップを作成予定だったが、できていない。 ○出席簿の保管場所が定着しつつある。	B	○引き続き、予告なしの避難訓練を続けていく。 ○安全点検は紙媒体に戻して、実施していく。 ○安全マップ作成に向けて、ユニバース活動を活性化させる。	不審者対策について、どんなことをしているのか。最近事件も起きているので、しっかりとした対策をとっていかねばならない。
	○食育の充実	○80%以上の生徒が食生活に気をつけることができてきている。 ○1・3年生を対象に食育パワーアップ授業を実施することができた。 (1年:家庭科・郷土料理文化、3年:受験期の食事) ○給食配膳時の指導ができた。	B	○食生活に気をつけることができていると回答した生徒が多かったが、朝食の内容を聞くと、偏りが見られたので、指導内容を工夫していく。 ○給食時間の栄養指導を継続させる。 ○外部講師に来ていただく機会を増やす。	通学路の危険箇所の確認は必要である。
④開かれた学校	○家庭・地域社会・関係機関との連携	○コロナ対策(密を避けるため、時間をずらしたり、日を分けたり)をしながら、オープンスクールや学校行事を実施することができた。 ○学年便り等の広報活動も毎回欠かさずに発信することができた。 ○家庭科の時間にGOTTSOの社長をゲストティーチャーに呼んでの講話をしていた。 ○2年生の職場体験学習で、地域のこども園で体験するなど交流が持った。また、連携校でもある阿波西高校とも授業を通して、定期的に交流を行うことができた。 ○アンケートなど定期的に実施し、保護者や関係機関との連携を図った。	B	○コロナ禍を考慮したオンライン配信の適切な在り方を検討する。 ○メール配信を利用して、きめ細やかな情報発信を促進する。(アンケートの送信・回収 手紙にQRコードを載せるなど) ○地域のゲストティーチャーについても、オンラインの使用を検討する。 ○SSWやカウンセラーと連携して情報を共有し、家庭訪問を活用して生徒理解に努める。 ○コミュニティスクールとして、学校運営に地域の声を活かす。	毎年、1年生の通学状況が気になり、心配である。荷物が重すぎるのか、よく転倒している。荷台のひものくり方や、カバンの中身等、1年生の初期の段階では、配慮が必要であると思う。
	○校内研修の工夫・改善と計画的な実施	○年2回の授業交流や人権の大研、阿波西連携研究授業など計画的な研修を行うことができた。 ○メンター制度は実施を試みたが、あまり行うことができなかった。 ○授業研究会では班活動を取り入れ、充実した研修を行うことができた。 ○道徳や学活の時間を活用し、ローテーションを組んで全教職員で研修しあひながら道徳や人権学習に取り組んだ。	B	○今後も時宜に応じた様々な研究授業を行う。 ○メンター制度担当を複数人設けたりサブリダーを設けたりして、研修を充実させ、人材育成に努める。 ○短時間で密度の濃い授業研究会を継続して行う。 ○気軽にお互いの授業を参観できるような関係性を構築する。	タブレット端末の効果的な活用ができてきている。持ち帰りによる、生徒たちのYouTubeなどの視聴が気になる。SNS等に関する注意喚起は必要である。
	○業務改善に向けた取組	○ストークと公務支援システムを全員が使用することで、業務の効率化を図ることができた。 ○ノー残業デー・ノー部活動デーを設定し、働き方改革に努めた。 ○職員会資料のペーパーレスやアンケートのICT活用を実施できた。 ○コロナ禍における部活動の活動時間に制限を設けた。 ○タブレットを活用して、オンライン授業を実施することができた。	B	○ストークの回覧板を校内で有効に活用する。 ○勤務時間の見直しをする。ノー残業デー・ノー部活動デーを徹底する。 ○会議時間のさらなる短縮・ペーパーレスを実施する。アンケートの実施方法を工夫するように努める。 ○休校や学級閉鎖の際に、オンラインでの学活や授業を行えるようにする。	